【臨任研・１年経験者研】

令和６年度版中教育事務所作成

第●学年●組　●●科学習指導案〔てびき〕

●●●立●●（小・中）学校　　指導者　●●　●●

1　日　時　　●●年●●月●●日（●）●校時（●：●●～●：●●）

2　場　所　　第●学年●組　教室

3　児童（生徒）　　第●学年●組　●●名

4　単元（題材）名　　●●●●●●●●●＜全●時間中●時間目＞

5　単元（題材）の目標（学習指導要領の内容との関連）

○

6　本時の展開

（１）本時の目標

○

（２）学習の展開

○学習活動 ・予想される児童（生徒）の反応	○指導上の留意点	【評価観点】評価規準 （評価方法） ☆Ｃの児童（生徒）への手立て
1（導入）		
2	○	
3		
4（まとめ）	○	■【知・技】評価規準 （評価方法） ☆手立て

※学習のめあてと振り返りを意識して作成する。

【４　単元（題材）名】
学習内容とそれに伴う学習活動が想起できるような単元（題材）名が望ましい。

【５　単元（題材）の目標】
学習指導要領の内容との関連が分かるように項目と記号を記述し、目指す児童・生徒の姿を示す。**複数ある場合は、本時ともっとも関連のあるものを１～２項目程度記述する。**

【６（１）本時の目標】
本時の目標を具体的に記述する。また評価規準との整合性を図る。

【指導上の留意点】
学習活動を進める上での教師の準備や留意点を記述する。

【学習活動】
児童・生徒の立場で書く。予想される反応は、教師が子どもの学習活動の流れを予想して試みた展開に対し、どんな反応を示し、どんな追究をしていくかを考え記述する。

【評価観点】
本時の評価規準を設定し、**評価観点を１～２観点程度**にする。
（評価方法）は、「行動の観察・発言」や「記述の点検・ワークシート」等、具体的な方法を記述する。本時の目標との整合性を図る。
☆は、「努力を要する」と判断されそうな児童・生徒に対してどのような手立てを講ずるかを具体的に記述する。または、教師からの支援の仕方を具体的に記述する。
※１「記録に残す評価」は「■」※２「指導に生かす評価」は「□」と記載する。

【指導案様式・てびき　ダウンロードURL】　http://www.pref.kanagawa.jp/docs/s2f/index.html

※１評価・評定としてまとめるために、子どもの目標の実現状況を把握し、記録するもの。

※２子どもの学習状況を把握、分析し、子どもへの指導・支援や教師の授業改善に生かすもの。

→記録に残す評価を行わない時間があってもよいが、目標に向けて指導を行う。子どもの学習状況を記録に残さない活動や時間においても，教師が子どもの学習状況を確認する。